

糸いとしい 糸いとしいと言う心

己おのの上うへを 見上げてみれば

鈍にびい色の空が

今日はなんだか光って見えたら

ほおいつ ほおいつ

ほおいつの ほおいつ

(劇中歌より)

公演依頼承ります

国内外、屋内外問わず、危険がない限りどこへでも伺い上演いたします。上演費は応相談。お気軽にお問い合わせ下さい。

銀色天井秋田企画公演

「なまはげシラノ」

原作／「シラノ・ド・ベルジュラック」エドモン・ロスタン作
脚本・構成・演出・出演／進藤則夫(帰ってきたあびす)

百年以上にわたって現在も世界中で上演され続けている傑作恋愛戯曲「シラノ・ド・ベルジュラック」のなまはげ版。奇っ怪な鼻を持つ原作の主人公のシラノを、角を生やした赤面(アカツラ)のなまはげに置き換えて、人間の娘に恋したなまはげの純情と心意気を秋田弁で描きます。

 銀色天井秋田
Silver Ship from Akita

劇団事務所

東京◎TEL/FAX 03-3898-6375 〒121-0822 東京都足立区西竹の塚 1-11-2-1404

秋田◎TEL/FAX 018-223-1520 〒013-0481 秋田県横手市雄物川町薄井字下開366-1

進藤則夫(しんどうのりお) プロフィール

舞台演出家・脚本家・俳優。1958年生。秋田県大仙市出身。帰ってきたあびす主宰。俳優のはずむカラダのための「YEBI-SYSTEM」を構築。秋田大学教育学部中退。桐朋学園演劇専攻学科卒。「劇団北の会」を経て「帰ってきたあびす」旗揚げ。



【舞台】

- ・帰ってきたあびす全公演に作・演出・出演する。
- ・滋賀の児童達を中心に活動する劇団カモンカンパニーの演出を旗揚げから9年間担当。
- ・客出演に、NODA MAP「ローリングストーン」、惑星ピスタチオ「破壊ランナー」、カムカム・ミニキーナ「ああ、しんどう」他

【映画】景山勝監督「開けて」主演 他

【CM】禁煙パイプ

【主な受賞歴】

- ・シアターグリーン賞「それからの泣いた赤おに」
- ・アートスポット・フリーク最優秀劇団賞「烏山心中」
- ・関西野外演劇連絡評議会制作賞 セツ寺共同スタジオ25周年記念公演「大須の社のマンカイの下」
- ・王子小劇場最優秀助演男優賞「タンゴ、冬の終わりに」
- ・ハイスクールミーティング賞・ほんプラザホール賞のW受賞「ワーニおじさん」

公演依頼承ります

国内外、屋内外問わず、危険がない限り
どこへでも伺い上演いたします。

上演費は応相談。お気軽にお問い合わせ下さい。

銀色天井秋田企画公演

たつみ

「翼の犬」

原作/「病める舞姫」土方巽 作

脚本 構成 演出/進藤則夫(帰ってきたあびす)

出演/佐藤正和

協力/慶應義塾大学アートセンター

秋田の巨人、舞踏の創始者である土方巽の多感だった幼少期を、舞踏家のバイブルとも呼ばれている「病める舞姫」から抜粋、構成して描きます。土方の生家に犬が飼われていたという設定の元に、その犬の目線から、昭和初期の秋田を泳ぎまわるように過ごしていた土方の瑞々しい感性を、秋田弁で語っていきます。

佐藤正和 (さとうまさかず) プロフィール

俳優。1956年生。秋田県横手市雄物川町出身・在住。
シアター・ル・フォコンブル所属。

1998年 シアター・ル・フォコンブルに加入。「郵便配達の恋」「煙が目にしみる」など出演多数。

2001年、2011年 10年に一度公演する「時限劇団」の活動に参加、出演。

2015年 進藤則夫らと共に銀色天井秋田を立ち上げ「翼の犬」を上演。以降、鎌鼬(かまいたち)美術館オープニングイベント、「土方巽を語ることⅦ」等で上演、精力的に活動している。

主な出演舞台 「検察側の証人・R」「ワシントンクラブ」(オフィス玉手箱プロデュース)、『ばあさん』(あきた演劇プロデュース)、他多数。



銀色天井秋田

Silver Ship from Akita

劇団事務所

東京◎TEL/FAX 03-3898-6375 〒121-0822 東京都足立区西竹の塚 1-11-2-1404

秋田◎TEL/FAX 018-223-1520 〒013-0481 秋田県横手市雄物川町薄井字下開366-1

私は魚の目玉に指を通したり、ガムの鳩を抱いた少女に言い寄りたりして、それからそれと生きていたが、いつも実のところ脈をとられていた。私は雪うな気分が発育してきた。私は雪にしよちゆう食べられかかっていた。し、秋になれば、バツタにも噛まれた。梅雨時は鯰に切られ、春先にはさくらつと川に吞まれたりして、自然に視線が、そついつものに傾いていったのである。塩鯉を板で叩いたり、炎天下のりやカーを眺めたり、ガラスに凸凹のある薬瓶を懐かしがったり、いちじく浣腸を使っているらしい人を訝しがったりした。梅雨どきの台所にある赤錆びた釘の暗さを探つては、そついつ所に立つて涙の拭き具合を、真剣に練習したりしていた。からだの中に単調で不安なものか乱入してくるから、からだに霞をかけて、かすかに事物を捏造する機会を狙っていたのかもしれない。